



# LLADRÓ®

## 60th anniversary issue

スペインが誇るリヤドロのポーセリンアートコレクション

ブランドアイテム特別付録

リヤドロオリジナルコットンバッグ&  
かざ針編み風レース付きハンドタオル




Towel SIZE  
約H20cm×W20cm

Bag SIZE  
約H54cm×W33cm  
持ち手全長 約50.5cm

リボンがポイントの厚手トートと  
ロゴ刺繍入りハンドタオルが  
付いています！



 e-MOOK

宝島社 ブランドムック

スペイン・バレンシア「ポーセリンシティ」を訪ねて  
ようこそ、リヤドロの

スペイン・バレンシアに位置するリヤドロの本社、通称ポーセリンシティを、今回は特別に取材！  
繊細さ、そこからほとばしる妖艶さと優雅さを大胆に表現する、リヤドロの秘密を迫ります。

Photograph: Pepe Castro Coor. Coordinate&Text: Tomiko Tanaka

Spain Valencia  
Porcelain City



一部、一般公開されています

製作工程の一部や、リヤドロ美術館、リヤドロ三兄弟の生家(P22)などを無料で見学できます(要予約)。申し込みは以下のサイトから、スペインに足を運んだ際はぜひ。  
<http://www.liadro.com/company/book/>

La Ciudad de la Porcelana

Address: Carretera Alboraya s/n 46016

Tavernes Blanques Valencia España

Tel: 900 21 10 10 (スペイン内無料)

+34 963 18 70 01 (日本から)

開館時間: 平日10:00~16:30

土・祝10:00~14:00

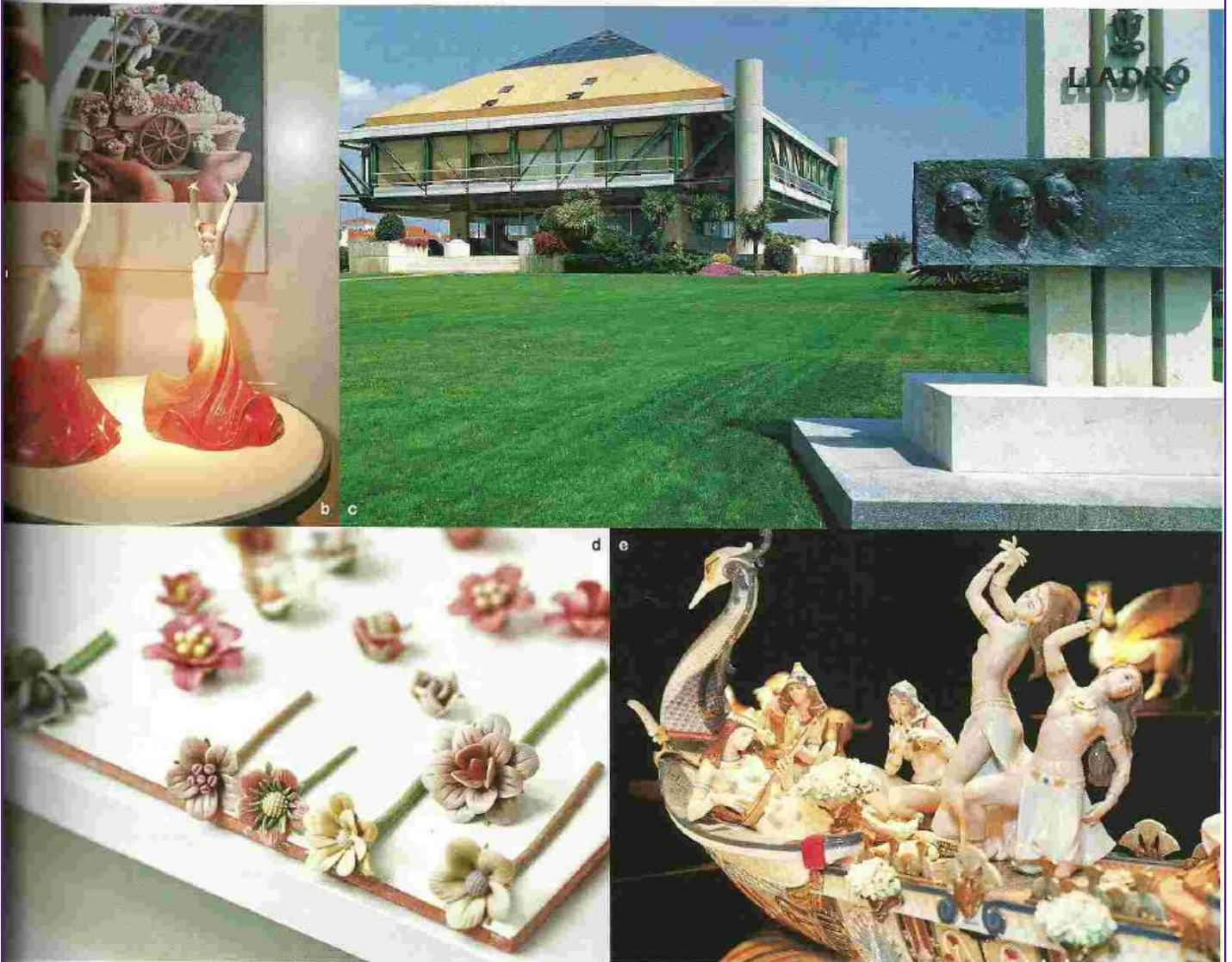
休: 日曜

言語: 英語、スペイン語

# 故郷へ！



マドリードから電車で約1時間40分、バルセロナから電車で3〜3時間半。人口80万人でスペイン第3位。温暖な地中海気候で雨量が少なく、世界遺産と共にバレンシアオレンジとバリエヤ料理で有名。



a.花々が咲き誇るポーセリンシティの玄関口。入り口を入ると同時に始まるリヤドロ物語は、来訪者たちを魅了し感動の海に迎え入れるでしょう。b.スペイン限定で販売されている作品「スペインハート」。c.緑と芸術豊かなポーセリンシティ内。d.壁に入れる前のフラワーアート作品の一部。e.シティ内に飾られている大作「Queen Of The Nile」。

## リヤドロ本社、ポーセリンシティの全貌があきらかに！

ポーセリンシティとは、スペインのバレンシアにあるリヤドロ本社の名称。広大な敷地内には全ての制作現場があり、大きな一つの町のようにも見えるため、

そう呼ばれています。また、ポーセリンシティでは一般のファンの訪問を歓迎しているのを見逃せません。手作業にて行われている作品の制作工程はもちろん、

リヤドロの人気作品が一挙に展示されたミュージアムの見学、最新作品の鑑賞と同時にショッピングができるブティックミュージアムも併設されています。

青い空に映える  
ポーセリンシティはまさに創造の楽園



ようこそ、リヤドロの故郷へ！

## part 1 Porcelain City

# リヤドロの本社、ポーセリンシティとは？

アーティストや職人が働くポーセリンシティ。リヤドロ作品の全てが制作されているこの場所には、スタッフのクリエイションを引き出すために必要な、最良の環境が整っています。



ポーセリンシティ内の広大な庭に可憐にそのつぼみを開く木花の美しさは、アーティストに休息と安らぎを与える理想的な環境です。地中海性気候の温暖な大地に息づく自然は、リヤドロの作品に深く影響し続けるでしょう。

真実、真心、情熱、感動が  
潜むリヤドロの魅惑を探して

バレンシア中心部より車で十数分の TAVERNES BLANQUES (タベルネス・ブランケス) という町に位置するポーセリンシティは、その全貌を1969年に披露しました。10万㎡の敷地内には、プール、テニスコート等のスポーツ施設が用意され、美しい庭に咲く花々が優しく微笑んでいます。デザインを司る彫刻家達が集い、日々、創造性を作品へと投影しているピラミッド型アトリエ。年間1万5千人もの訪問客があるこの場で、リヤドロの作品はデザインから制作まで一貫した手作業にて作られているのです。



この開館時はリヤド白で多く大  
通はありますが、訪問者達をとり  
受けさせていただきます。よい作品を  
生むために不可欠な環境です。



プールサイドには大きなチェスが！遊び心いっぱいのオブジェ兼遊び道具。



休憩時間にくつろぐ女性達。リラックスしている様子にリヤドロの雰囲が見えます。



常にアートとともに。バレンシアの彫刻家マリアーノ・ベンジュエーレのレプソカの噴水。



堂々のカフェスペース。ランチや休憩はのんびりとした雰囲気です。

ようこそ、リヤドロの故郷へ！

## part 2 Atelier "Pyramid"

# アートが生まれる リヤドロの“ピラミッド”

インスピレーション、創造性、繊細な感性、そして魔法が宿る場所、それがピラミッド型のアトリエです。

リヤドロ作品は、それを作り出すアーティストを映し出します。人生、芸術、自然の美質がここで創作され世界へ送り出されるのです。

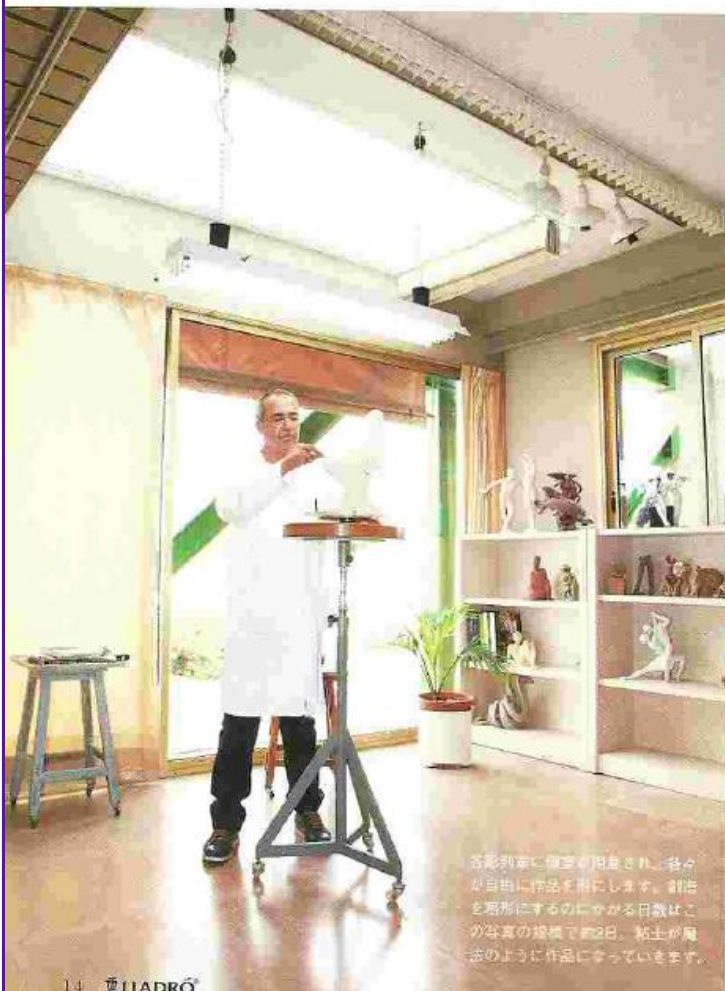


15人の彫刻家、技術者、そしてデコレーターの館、ピラミッド型アトリエ。まさに才能、芸術、熱意が集結するリヤドロの中核部と言えます。合計約40人が働くこの場で、今日も自らの人生経験や感動を作品に表現し続けます。

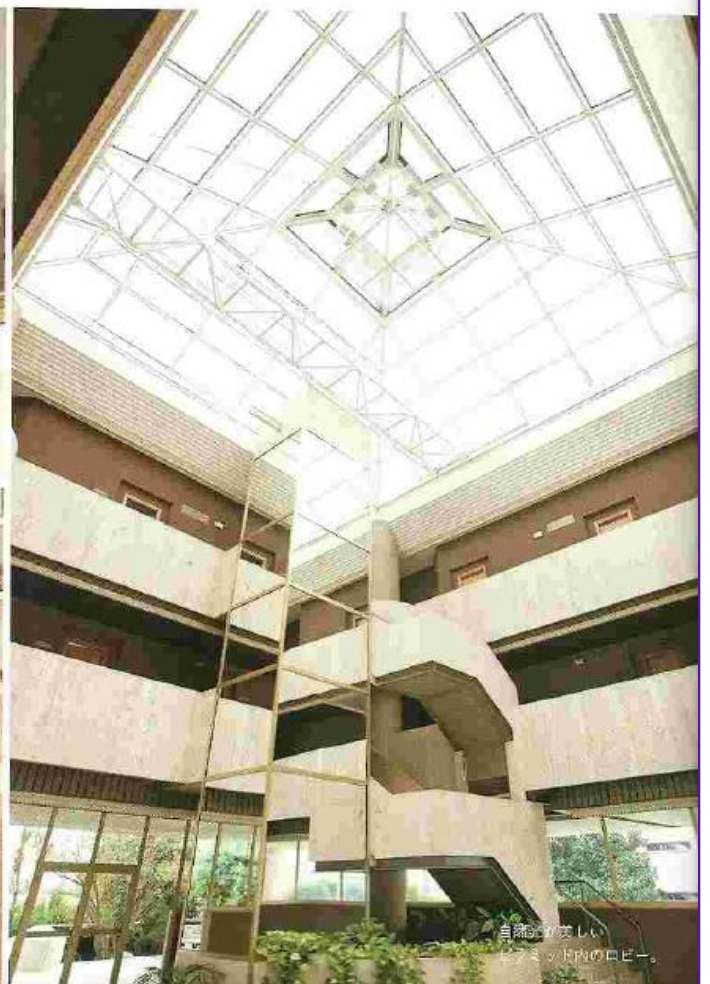


個々の思いから生み出される  
本物の芸術を追って

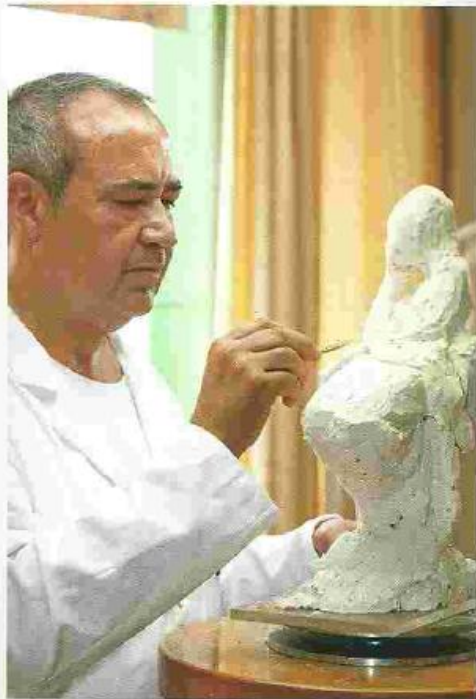
ふとした眼差しやしぐさから彫刻家たちはインスピレーションを受けます。アイデアの源はどこにでもあります。彼らはそれに気づくことができるのです。自らの奥底に横たわる思いや感覚に考えを巡らせ、探求しながら創造していきます。アイデアがひらめく神秘的な瞬間。優雅さ、調和、歓喜、尊敬。彫刻家達は、自分の思いを正確に再現していきます。



各彫刻家に個室が用意され、各自が自由に作品を創ります。制作を黙想にするのにかかる日数はこの写真の撮った時2日。粘土が魔法のように作品になっていきます。



自然が美しい  
ピラミッド内のロビー。



制作開始から1時間ほどしか経ってはいない女性像が、驚くほどの早さで見るとまるで形になっていきます。

原型彫刻家  
フランシスコ・ポロベ氏

14歳からリヤドロに入り、絵入れや10年間デコレーターを経験した後、彫刻家として25年の経歴を持つ。繊細な感性と魔法の手を持つ彫刻家。代表作に『臥龍』『シンデレラ(王宮への一歩)』『聖なる獅子』『アリス・イン・ワンダーランド』『ススの兵隊さん』など。

作品やその写真、種々のアート情報と家族写真に囲まれたフランシスコ氏の空間。使い込まれたシェーバーにも種類があり使い分けされています。



作品に命を吹き込む  
ポーセリンの達人  
原型彫刻家の仕事とは？

装飾が複雑なハイポーセリンを得意とし、デッサンを描かず直に粘土で自分の想像を作品にする原型彫刻家フランシスコ・ポロベ氏。豊富な経験を基に簡単に制作しているように見えますが、ここで制作が始まってから実際に作品として店頭と並ぶまでは数年かかるそう……！彼らがこだわる造形を、細部に渡って実際に商品化することの難しさが伺えます。作品の生みの親の一人フランシスコ氏に、リヤドロの魅力インタビュー。

- Q あなたが考えるリヤドロの魅力とは何ですか？
- A 人間らしい温かみを持っているところですね。人間の敏感な部分を捉え、それを作品として具現化しているところです。
- Q 彫刻家になった経緯やきっかけは何ですか？
- A 生まれた時から。僕は小さい頃から芸術が大好きだった。でも、好きだけではプロにはならない。やはり技術等をかなり勉強することが必要です。
- Q やりがいや仕事で特に大事にしていることは？
- A 繊細な部分まで作品に表現するように努力することです。また僕はアジアをテーマにした作品を中心に制作をしていますので、それぞれの文化や習慣を十分勉強し、作品上でそれらが尊重できているかを考えます。
- Q 苦労している点は何でしょうか？
- A ここで楽に粘土で形ができたとしても、その後の技術部で分析すると、商品化できない場合があります。ポーセリンは生きています。後のことも考えて制作しなければならないのが難しいですね。

Favorite

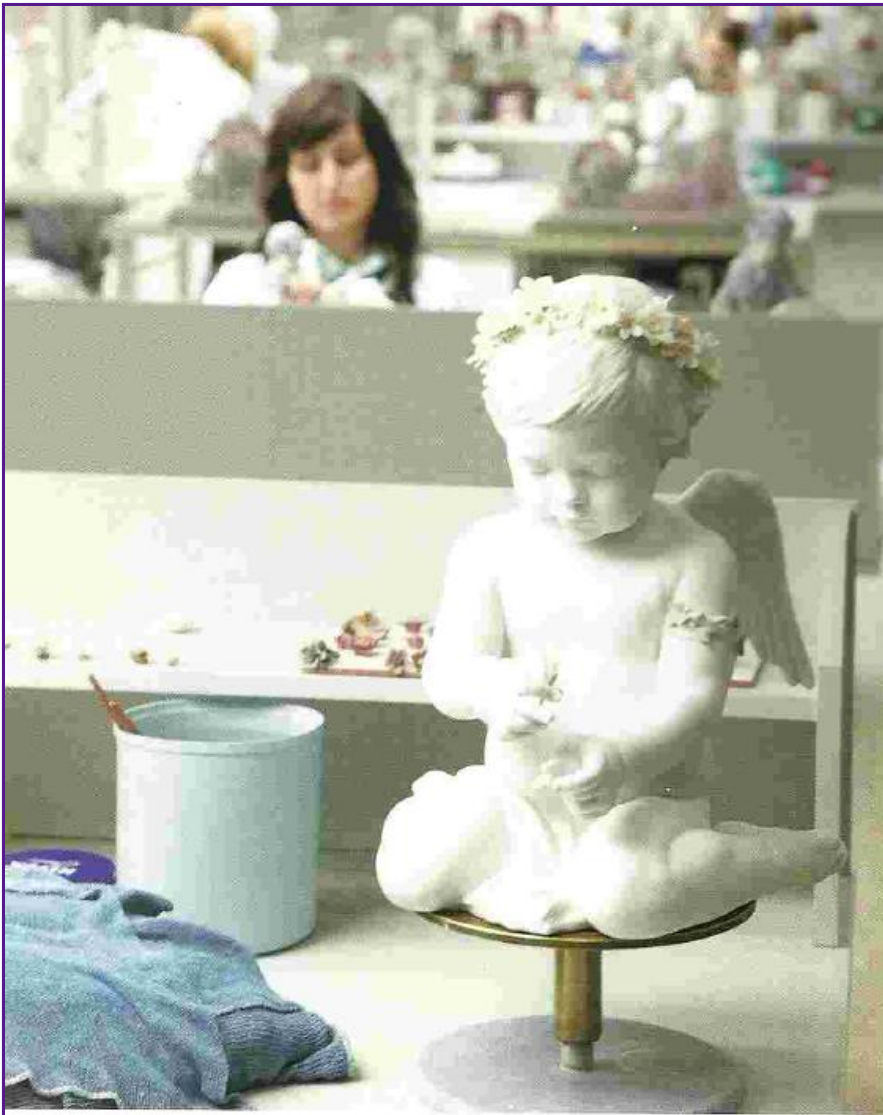


『臥龍 (Blue and Gold)』 [H74×W70×D53cm] ¥3,150,000 (限定制作数150)

フランシスコ氏 お気に入りの作品

男性にも人気  
今にも動き出しそうな『臥龍』

「この作品は、本当にリスキーで大挑戦でした。技術部分で難しい問題がたくさん起こりましたが、鱗の付け方は特にね。しかしながらすべてうまく出来たことが本当にうれしかったし、男性向きに考えたのも意味深かったです。繊細な鱗、尻尾の動きのリアルさ。龍が飛び立とうと力を含めて構えた瞬間を捉えた名作です。」



## 型取りから絵付けまで リヤドロ作品が形になる場所

工場内では作品の型取りや絵付けなど、一連の作業が行われています。まずは作品の繊細なディテールを表現するため、作品を細密にパーツに分割し型取り。その後、特別に調合された陶土液を使い接着する組立作業へ。そしていよいよ一つひとつの作品に色彩という体温が加えられていきます。世界中の人達を癒やし、心を動かすリヤドロの持つあの優しく穏やかな色。美しく調和する色彩のコンビネーションは、作品が本来持つ素性を更に豊かにし潤沢さを添えます。



工場などの施設が集結。左奥のビルDFにブティックミュージアム、最上階にリヤドロミュージアム。工場見学の入り口もこちらから。

ようこそ、リヤドロの放物へ！

### part 3 Artist in Factory

## 一つひとつが手作業

## 熟練アーティストが集まる工場へ

ここでも起こるリヤドロの奇跡。繊細、優美、温かみがあふれる作品達は、豊かな色調とともに、工場にて命を吹き込まれ、一つひとつ完全なものに近づいていきます。



a. 練込み型は、その寿命対策のためマスターモデルが作られ保管。b. 約4,000種にも及ぶ独特の色調は、全て天然の色素を調合して構成。一筆のミスが致命傷となるため、絵付け師は安定した手の動きと集中力、豊富な経験が必須。c. 小さなシェーパーを巧みに操りながら成形。デザインを忠実に再現するための重要な仕事。





粘土粒を指先で押し広げて花びらを作り、一枚一枚にひねりを入れながら紐え付け、一つの花が完成します。



フラワーアーティスト  
マリア・ホセ・ブストス氏

幼少時から手作業が大好きで、37年間フラワーアーティストを務める。リヤドロの花作り一筋ですが、実は花を作品に配置することが最も好きな仕事だそう。

花作りの達人。熟練の技が産み出す美の頂点はまさにここにありました

学校卒業後、迷わずリヤドロに入ったマリア・ホセ氏は、そこで出会った天職を心より愛し楽しんでます。おしべやめしべ等花の細部はもちろん、葉脈まで繊細に再現するフラワーアーティストです。目で追うのがやっとのスピードで花を生み出していく彼女の手。それはまるでつぼみが開花する一瞬のような神業です。



Favorite

マリア・ホセ氏 お気に入りの作品

日本でも大人気『天使の花占い』。

「本当に素晴らしい作品です。私としてはこの作品を実現していくにあたって、とても達成感があります。そして、何よりもこの天使の愛らしい顔が大好きなのです。花の冠をつくるだけで3日かかるそう！

この作品の素晴らしいところは、何とんでも上品で生き生きとしたフラワーリング。ルネッサンス期の天使を表現した『天使の花占い』。[H36×W28×D30cm] ¥349,650

Q あなたが考えるリヤドロの魅力とは何ですか？

A シンプルで世界中の誰もが好きになるデザインだと思います。もちろん、その繊細さが一番の魅力でしょう。それは世界の皆さんを魅了しますよね。

Q フラワーアーティストに必要な素質や才能は何ですか？

A やはりきめ細かいこと。あと辛抱強いことも重要です。この仕事を愛せるかということもとても大切だと思います。フラワーアーティストの場合、どのくらい花を生き生きと表現できるかということが非常に大事ですね。

Q やりがいや仕事で特に大事にしていることは？

A 作品の焼きあがった後の完成像を想像しながら仕事をしています。とにかく完成した作品を見るのが大好きなのです。

Q 苦労している点は何でしょうか？

A 温度と湿度ですね。やはり私の仕事は花作りで扱うものがとても小さいですから、温度や湿度にはものすごく影響を受けます。それらは高すぎてもいけないし低すぎてもよくないのですよ。

## How to make Flower Art

まさにプロの技！  
花びら一枚一枚から花をつくります

リヤドロ作品に多く見られる、細やかな花々。これは、何年もポーセリンを惹きこんできた経験豊かなフラワーアーティストの手技によるもの。透き通るような花びらやその重なりなど、細かなディテールを形にすることができます。



指先で花びらやめしべなどのディテールをもう一度再突。



つくった花びらは、ピンセットでつまんで組み合わせます。



一枚一枚重ねて、ようやく一輪の花が完成。気が遠くなる作業。

ようこそ、リヤドロの故郷へ！

## part 4 How to make Hina Dolls

# 雛人形の制作工程に密着！

洗練されたその色合いと優しく穏やかな表情が心とませる。日本向けの代表作といえば雛人形。新作「雛人形 60周年記念モデル」ができるまでを詳細に追ってみました。

## 5 成形

陶土液を各パーツの鋳込み型に注入。パーツの大きさにより定められた厚さに陶土液が乾燥するまで置きます。時間管理が最重要点。



液の状態ではクリーム色の陶土液。乾燥すると白くなります



規定時間放置した後、人形内部の凝固していない陶土液を、型を逆さにして流し捨てます。



細かくパーツに分けられている鋳込み型。乾燥後、型を取り外します。



雛が命の人形。お内裏様の顔は他のパーツと混ぜず顔だけの型で制作。一つひとつ全て手作業で行われます。



お内裏様の全パーツが鋳削。多数あるお内裏様の全12パーツが登場。ちなみにお雛様は11パーツ。

## 6 組み立て→磨き

陶土液を接着剤にしてヘラや刷毛、筆などを巧みに使用。組み立て後、全身を滑らかに磨き上げます。雛人形1組を組み立て、完成までに要する時間は、この作業だけで約3時間。

この後、型跡等を除去。完成品に近づいていきます



接着のための陶土液の量にも細心の注意が払われ、非常に丁寧に接着されます。



作品を刷毛でキレイに清掃し、余分な粉を落とします。このような一つひとつの細かい工程がすべて品質につながります。



注意深く研磨していきます。微ミリの接合の違いで作品の運命が決まる瞬間。

## Start!

### 1 イメージスケッチ & クレイモデル

彫刻家がデッサンを基に、クレイ（粘土）モデルを制作（デッサンをして直にクレイで制作する彫刻家もいます）。

### 2 分割

クレイモデルを頭、脚、胴などのパーツに分割。通常一つの作品は15～20パーツ。大作になると約300パーツ！ちなみに、雛人形1組は33パーツ。

### 3 マスターモデル

分割したパーツを石膏で型取りし、マスターモデルを制作。作品の最終的な仕上げ具合は、このマスターモデル作りにかかっているため非常に重要です。

### 4 素材

ポーセリンの素材、リヤドロ社オリジナルの特別陶土液をつくります。石英、長石、カオリンの3つの鉱物と水を使用。



詳細に分割されたパーツ。慎重に次の工程に送られます

# 7 乾燥

徹底した湿度コントロールのもとに、作品全体の狂いやひび割れを起こさないよう乾燥させ、絵付けに備えます。  
ポーセリンは通常24時間乾燥させます。

# 8 絵付け

4000種類以上の色を使い分ける絵付師は、豊富な経験が必要とされます。  
焼きあがった後どのように色に変化するか、釉薬の色彩効果等の深い知識も必須です。

左が完成作品、  
右が焼成前。  
色・サイズの  
違いに注目！



色遣いに注意を払いながら、詳細に説明された色付け  
ノートの指示に従い、絵付師は慎重に色を入れていき  
ます。



ここで見える色と焼き上がった際に出る  
色は違います。まさに化学のマジック！



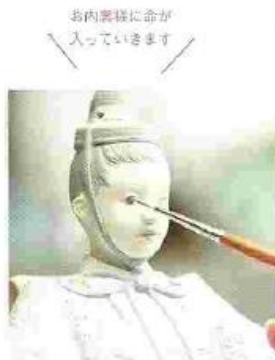
焼成後の作品は水分が蒸発するため約15%小さくな  
ります。全てが完璧に計算され実践されているのです。

# 9 表情の仕上げ

顔は作品全ての印象を決める重要な要素。  
リヤドロには、顔だけを担当する  
絵付師が存在します。



黒目の位置や少しの色の違いで、表情は大きく変わっ  
てしまいます。そのため、絵付けは慎重に。



お肉親様に命が  
入っていきます  
表情用の色彩は立体感を出す絵具を使用。  
これにより顔の表現力がさらに豊かに。

# 10 窯へ

リヤドロは高温窯にて  
1回で焼成する技術を開発。  
約1350度の高温で  
24時間近くかけて焼成する  
リヤドロ・ポーセリンは、指ではじくと  
キーンと鋭く澄んだ音がして、  
心の奥底まで響き渡ります。



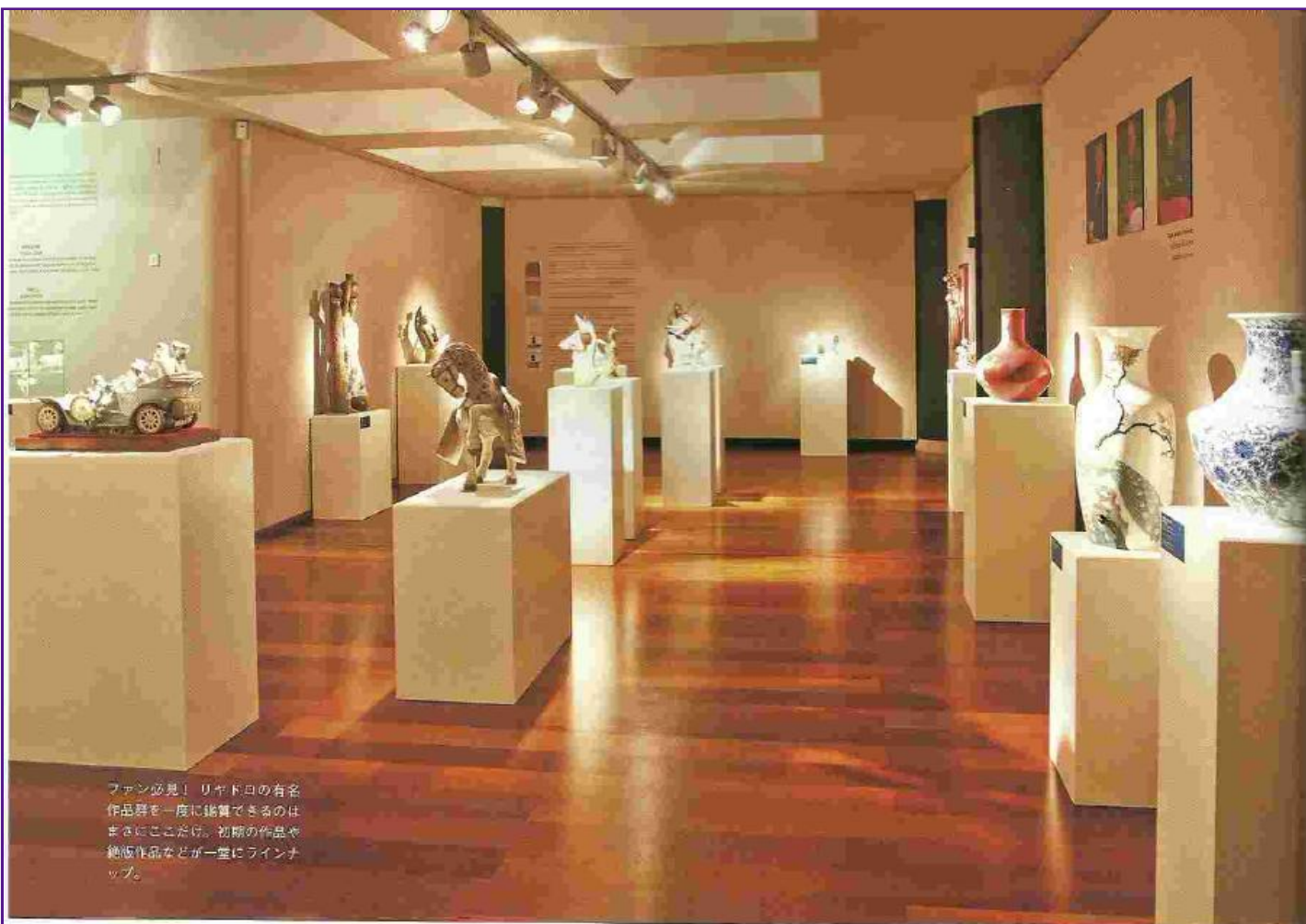
表現豊かで優雅。そして繊細なポーセリンアートが生  
まれる瞬間。最高級ポーセリンの誕生です。

# 11 完成

焼き上げられた作品は  
一点一点厳密に検査されます。  
ひび、色ムラ、釉薬ムラなど  
細部まで確認し、  
検査に合格しなかった作品は  
市場に出ることはありません。

雛人形 60周年記念モデル  
[H25 x W41 x D22cm] ¥246,750





ファン必見！リヤドロの有名作品群を一度に鑑賞できるのはまさにここだけ。初期の作品や絶版作品などが一堂にラインナップ。

ようこそ、リヤドロの故郷へ！

## part 5 Lladro Museum

# プレミアムな作品が結集 リヤドロミュージアム

ポーセリンシティの中には、リヤドロ・ワールドにたっぷり浸れる「リヤドロミュージアム」があります。時代の経過と同時に、変化する作品テイストを細部に渡って鑑賞してませんか？

リヤドロの歴史とともに  
変化していく作品が勢揃い

リヤドロの歴史を10年ごとに分け、年代別に作品の特徴と傾向がわかりやすく展示説明されたミュージアム。創業当時のクラシカルな作品や、壺、茶褐色の素朴な風合いが特徴のグレス作品、絶版となった作品等、すでに市場ではお目に掛かれないレアで懐かしい作品も。ファンの心を掴んで離さない空間です。



リヤドロ作品以外に、19世紀～20世紀のゴシック、ルネッサンス、バロック様式等、宗教画を中心に三兄弟が選り抜いた作品約70点が展示されています。

1953年リヤドロ創立時からの  
代表的な作品が一挙登場！

三兄弟と何百人ものアーティストの技  
と愛情、才能が込められたリヤドロの作  
品。作り手の創造性、繊細な手仕事、妥  
協を知らないこだわりによって生まれる  
リヤドロの子どもたちは、永遠にその輝  
きを失うことはないでしょう。



どちらも復刻版が登場していますが、オリジナル版が見  
られるのもミュージアムならでは。写真上『ORIENTAL  
HORSE (現:東洋の勇馬)』。写真下『FISH CENTER  
PIECE (現:幸運の魚)』。

#### daln リヤドロミュージアム

ポーセリンシティへの見学同様、右記のサイトより要予約（英語）。<http://www.lladro.com/company/book/>

開館時間：平日10:00～19:30 土、祝10:00～14:00 休：日曜 電話：900 21 10 10（スペイン内無料）+34 983 18 70 00（日本から）



a. エキゾチックで品の良さが魅力的な『Tahitiana』。 b. 『池のカモ』は、創業者ホアン氏の一番好きな作品。 c. ロ  
ーマ教皇パウロ6世にも贈られた『東方の三賢人（メルキオール）（ガスパール）（バルタザール）』（左から）。

## World 世界の名だたるミュージアムが所蔵！

世界的に有名な美術館や博物館からラブコール！アート性の高いリヤドロの作品は、  
4つの美術館や博物館の所蔵作品として所蔵・展示されています。訪れた際にはぜひチェックを。

### ロシア エルミタージュ 美術館

収蔵作品：コーチ、本を読むキホーテ  
ダ・ヴィンチの絵画などで有名なサンク  
トペテルブルクにあるロシアの国立美術  
館では、『コーチ』（写真）と、『本を読む  
キホーテ』を常設展示！



コーチ [H45×W113×D39cm] ¥4,200,000  
（限定制作費500）



### ベルギー 王立美術・ 歴史博物館

収蔵作品：薙北、鹿になったアクティオン  
ベルギーのブリュッセルにある由緒ある  
博物館に登場。美しいツルの姿を再現し  
た『薙北』（写真）と『鹿になったアク  
ティオン』を収蔵。



薙北 [H44×W55×D34cm]  
¥294,000

### イタリア ファエンツァ 国際陶芸美術館

収蔵作品：Wrestling  
レスリングの荒々しさを表現するため単  
純化させた作品は、リヤドロには珍しい  
作風。世界最大版とも言われる陶芸専門  
の美術館にて。



### ドミニカ共和国 サントドミンゴ 近代美術館

収蔵作品：鹿になったアクティオン  
カリブ海に位置するドミニカ共和国の首  
都サントドミンゴにもリヤドロ作品が。  
匠の躍動感ある動きを一眼で捉えた人気  
作が仲間入り。



鹿になったアクティオン  
[H56×W106×D40cm] ¥2,940,000



\*一部販売が終了しているものもございます。



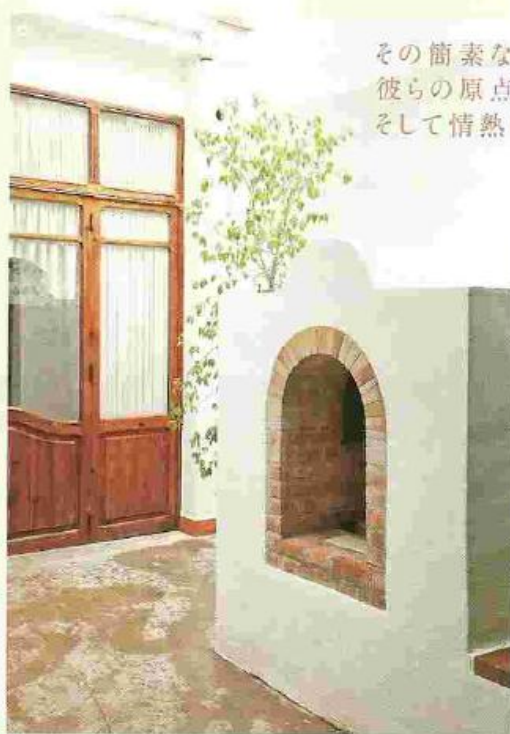
リヤドロ三兄弟の幼き日の写真。左から次男・オセ、長男・ホアン、三男・ビセンテ。

ここから全てが始まった

## リヤドロ三兄弟の生家を訪ねて

19世紀バレンシアの小さな伝統家屋から始まったリヤドロ。

スペイン・バレンシア郊外の小さな村にある創業者、リヤドロ三兄弟の生家を訪ねました。

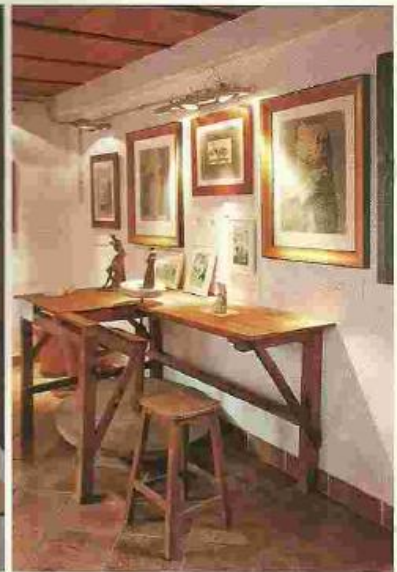


その簡素な作りは、  
彼らの原点、  
そして情熱の源

a. 三兄弟が毎日出入りしていた入口。b. 彼らの最初の工房。燃え上がる情熱と共に試行錯誤の日々が続いたことでしょうか。c. 動物と荷車が運れるよう高い作りになっていた天井と入り口。この地下も工房の一部になっていたそうです。d. 中庭に築かれた最初の窯（修復済み）。最初の作品が出来た時の感動が驚ります。

## 今や世界的な ポーセリンブランドになった リヤドロのルーツ

貧しい農家に生を受けた三兄弟。小さな村にある生家で、その運命に操られるように磁器の世界に入り情熱を燃やし始めます。デザインから製造まで一貫して手作業にて実現する制作工程は、自宅の中庭に小さな窯を築いたリヤドロ誕生の瞬間から現在に至るまで一切変わっていません。決して妥協をしないリヤドロ。三兄弟が毎日仲良く作品の制作に意欲を燃やしていた様子が蘇ってきます。年に一度の村祭りの際には今でもこの家に戻ってくる彼ら。ここには彼らの原点が今でも存在しているのです。



工房の大きな窓から見える景色。そこには50年前と何ら変わらない時が静々と流れています。彼らは、これらの机でどんなことを考えながら作品を形取り、色を加えていたのでしょうか。壁の写真家が当時の様子を知らせています。



生家の中には、貴重な初期の作品を展示。a.リヤドロの芸術的変遷にとって重要な転機となった『悲しきピエロ』。b.レースの表現方法を始め、現在の作品との違いに注目。c.三兄弟が美術工芸学校に通っていた15～16歳時に描いた絵画も飾られています。d.50年代の初期の作品は女性像が多く登場。

「兄弟は絶対に離れず  
支え合い、共通の目的を  
常に追求すること」

これは三兄弟の母の教えです。貧しい農家に育った三兄弟にとって絶対だった母の教え。この生家から始まったリヤドロの原点は「母」にもあるのではないのでしょうか。多い時で年間1万人が訪れるこの生家は修復され、当時の形を残しながらも美しく装飾されていますが、そこには若くして亡くなった母の教えが息づいています。仕事と勉強の両立から始まった彼らのリヤドロ創業者としての人生は、質素で物質的には恵まれていませんでしたが、両親の愛情に包まれ非常に充実していたに違いありません。私たちが忘れてしまった何かを懐古できる空間と言えるでしょう。

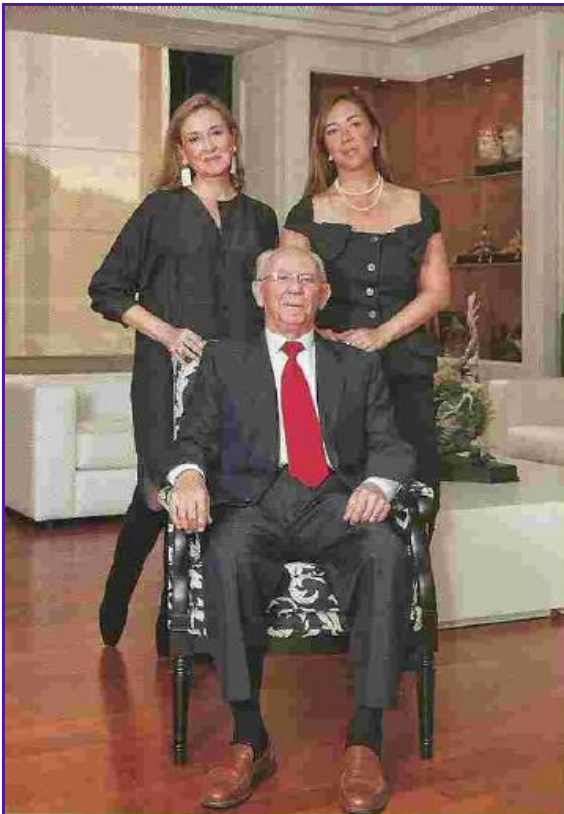
館内には、世界的な著名人との親交を記録した写真展示もあり。リヤドロが世界的評価の高いブランドであることが分かります。

### data 三兄弟生家

ポーセリンシティへの見学同様、以下のサイトより要予約(英語)。<http://www.lladro.com/company/book/>  
Address: C/San José, 5, Almássera  
(ポーセリンシティより車で約10分)  
開館時間: 月～金 9:00～14:00, 16:00～18:30  
料金: 無料 言語: 英語、スペイン語



館内で、おもしろいものを発見! 1961年6月1日、創立時のスタッフから寄贈されたメッセージとサイン付きの絵。まるで、現ポーセリンシティの雛像を予想していたかのような未来図が描かれています。



(写真左から) 現社長のロサ氏、創立者ホアン氏、アンヘレス氏  
クリエイティブ委員会を構成し、新作の選定や新しい方向性の示唆  
等リヤドロの中心的役割を担っている3名。ロサ氏とアンヘレス氏  
ともにホアン氏の長女。長女のロサ氏は2003年社長就任。三女の  
アンヘレス氏はニューヨークのリヤドロ・ミュージアム、スペイン  
本社の製造部門勤務後、経営参加。

# LLADRÓ Philosophy

## リヤドロ・ファミリーにインタビュー

現在は創業者の一人ホアン氏と、彼の娘のロサ氏、アンヘレス氏が中心のリヤドロ。トップ3名に、創立時から現在まで続くリヤドロの人気の秘密を、特別に聞いてきました。

### introduction

#### ホアン氏の実直さと懐の広さを実感したインタビュー

「多くの人達が、リヤドロで長い期間働き、退職の日に私のところにやっ

てきてこう言う。「私の人生そのものがリヤドロだった、誇りを持っている」と。その言葉こそ私がいちばん、仕事のやりがいを感じる瞬間なのです。リ

ヤドロで働いているのは一世代だけではなく、二世帯という者も多く、本当にありがたいことです。まずはこれからも彼らが心地よく働ける環境を作り続けていかないと。よい作品を生み出すためにもね」(ホアン・リヤドロ氏)

「日々の小さな努力と粘り強い心。  
それらの積み重ねが  
素晴らしい作品を生み出すのです」

(ホアン氏)

3名揃うのは大変まれな程、超多忙なリヤドロの経営陣。緊張感あふれるなか、3名が登場。その途端、人間的な穏やかさも温かみがあふれ、一気に会場が和やかになりました。彼らの口から何度も放たれたのは、「とことん追求していい物を作りたい。人は宝」等、強く情熱的な言葉。その意とするところは……？ 3名の言葉を通して、リヤドロの本體に迫っていきます。

——60年という歴史の中で、リヤドロはトップブランドの地位を築いています。その一番の理由は、何だとお考えですか？

ホアン氏 完璧な作品を作るためには何度も失敗をしますが、その積み重ねが美

しい作品を作り出します。美しい作品の裏には誰にも想像ができないような努力や秘密があるのです。作品によって材料のミネラルの分量を変えるとか、焼く温度の違い等のちょっとしたことを軽率にしないことです。このような小さいことの積み重ねと諦めない探究心。それと人を大切にするとこころですかね。

——リヤドロの本社ボーセリンシティは広大かつホスピタリティが充実しています。何故、これほどまでのアトリエを作ったのでしょうか？

ロサ氏 一般の方々の見学の際には、私たちが行っていることやボーセリンの制作工程等、もっと知識を深め価値を見出して欲しいと考えています。もちろんお

越しいただいた1日を楽しんで欲しいという思いもあります。スタッフについてですが、やはり勤務環境は大事です。ここにいるスタッフを私たち経営陣は誇りに思っています。ここではストレスはあってはいけません。いい環境がいい作品を作るのです。

——リヤドロのアーティストに必要な素質や才能とは？

ホアン氏 まず第一に繊細さが必要です。アーティストとしてさまざまなことを捉え、そしてそれを作品にしなければならぬのですから。そのような才能は見ればわかりますよ。

——多くのアーティストやスタッフに高いクオリティーを継承し、それを共有するのは大変なことですが、それを可能にしている秘訣を教えてください。

アンヘレス氏 この会社にはスペシャリストが存在し、最高のクオリティーの作品を作り出す体制があります。例えば、彫刻家の部署ですが、今の彼らは第二世代です。第一世代の彫刻家達はリヤドロ



「各部署のスペシャリストたちが  
いつもいい物を作り出そうと  
知恵を出し合い頑張っています」

（ホアン氏）

が作った学校で第二世代の彫刻家を育て、誰が彫刻家として能力があるかを見定め、その後数年かけて彫刻のスペシャリストとして育てたのです。そうして最高の芸術クオリティーと技術が継承されるのです。また彫刻家が作った作品を製品に仕上げる技術も優れていなければなりません。デザインは分割したピースごとに詳細に分析します。その分析データを蓄積する部署があり、色やデザインについて管理しているのです。なぜなら彫刻家がデザインした作品の表現や色がそのまま完成品にならなければ意味がありませんからね。ですから彫刻家だけでなく他の制作工程の中にも様々なスペシャリストが存在し、日々技術力をキープし高める努力をしています。そのようにして、“スペインのパレンシア”にて手作りで作っているリヤドロの“クオリティー”が守られています。

——リヤドロの今後「変わらず継承していくこと」、「変わっていくこと」をそれぞれ教えてください。

ロサ氏 探求スピリットはこのまま変わらず引き継がれていくでしょう。そして、作品を通してリヤドロが放つ人生の喜びや命の尊敬等を伝える方法は変わっていきます。例えば、デザインのスタイルや技術はこれからも発達し、発展という形で変わっていきますね。創造の発展です。ただその発展は、リヤドロの本質というものを失ってはなりません。

——日本に來日された際の印象、日本のファンの特徴がございましたら、教えてください。

ロサ氏 何度も日本を訪ねていますが、行くたびに新しい発見がありますね。ただ訪日時にはプライベートの時間がないので本当はもっとよく見たいです。日本の伝統が好きで、雑人形や若武者をリヤドロでも作っていますが、そのような作品を通して日本の伝統を楽しみながら勉強させていただいています。日本のファンの皆さんはリヤドロの作品を細部に渡って高く評価してくださる方たちだと思います。日本には繊細さが持ち味の文化が多く存在し、それを理解できる素養が日本の方にはあるのかもしれないね。

アンヘレス氏 日本はものすごくエキジチック。儀礼や象徴を重んじる日本に大変感銘を受けました。リヤドロは感情や人生における重要なセレブレーションの瞬間を作品にしていますが、日本の文化にはそのような伝統がたくさん詰め込まれていたのですから。日本のマーケットがリヤドロにとっていかに重要かよくわかりました。後はやはり日本の全てに渡る繊細さは素晴らしいですね。それは例えば、ギフトの包装紙や包装方法を見れば一目瞭然です。とてもデリケート。そのような商品プレゼンテーションスキルを学びに日本に行きたいです！

——最後に日本のファンにメッセージをお願いします。

ホアン氏 これからもリヤドロの作品を皆さんに気に入っていただき、絶対に日本のファンの皆様をがっかりさせないような作品を、日本の伝統を尊重しながら作り続けていきたいですね。

「スタッフの勤務環境は大事。  
彼らを誇りに思い、よい環境を作る  
努力をしています」（ロサ氏）

## Meets Celebrity

リヤドロは、芸術家、経営者として、文化、政治、経済等各界の国際的著名人との親交があります。今までどのような妻人がリヤドロとの親睦を深めたのでしょうか。



天皇后陛下

ホアン氏とご夫妻ドローレス氏がスペインのサルスエラ宮殿で、スペインロイヤルファミリーとご一緒。



ローマ法王  
ヨハネ・パウロ2世（当時）

リヤドロ・ファミリーがバチカンにて法王に謁見。



ジミー・カーター  
元大統領

第39代アメリカ合衆国大統領でノーベル平和賞受賞者。2010年訪問。



マーガレット・サッチャー  
元首相

鉄の女と呼ばれたイギリス史上初の女性首相。

エドウィン・オルドリン

ハリウッド俳優は、ピパリー・ヒルズ店のオープニングに出席。



マイケル・ダグラス

アポロ11号にて月面着陸した宇宙飛行士。



マイケル・ジャクソン

KING OF POPは1982年9月に訪問。